

船舶事故調査報告書

平成22年9月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成21年7月18日 09時00分ごろ～11時30分ごろの間）
発生場所	青森県むつ市関根漁港沖 関根港第2西防波堤灯台から真方位045°500m付近（概位 北緯41°22.5′ 東経141°13.9′）
事故調査の経過	平成21年7月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{てる} 輝丸、1.1トン AM3-36760、個人所有 7.14m(Lr)×1.76m×0.70m、FRP ガソリン機関、60kW（漁船法馬力数）、平成7年3月25日
乗組員等に関する情報	船長 男性 78歳 二級小型船舶操縦士、特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和51年5月28日 免許証交付日 平成20年12月25日 (平成26年8月31日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、わかめ養殖施設の清掃作業を行うため、平成21年7月18日09時00分ごろ関根漁港を出航した。 本船は、11時30分ごろ、無人で養殖施設につながれているのが発見され、船長の捜索が行われたが発見されなかった。 船長は、同月20日16時27分ごろ、潜水捜索中のダイバーにより現場付近の海底で発見され、揚収された。 死因は不明と検案された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東北東、風力 2、気温 約18～20℃ 海象：平穏
その他の事項	養殖施設は、関根漁港の約1km沖に設置されていた。 本船は、燃料が全部消費されてエンジンが止まった状態であった。 本船は、ふだん約20ℓの燃料タンクを満タンにして出航しており、燃料が満タンの場合、エンジンは、アイドリング状態で半日以上使用できた。 本船が発見された際のスロットルの状態は、確認されていない。 船長は、ふだん、救命胴衣を着用していたが、発見時は着用しておら

	ず、救命胴衣は船内に置かれていた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	不明 不明 なし 死因は不明と検案された。 本船は、船長が1人で乗り組み、関根漁港を出航し、09時05分ごろ同港沖の養殖施設に到着して係留され、11時30分ごろ、無人の状態で発見されていることから、この間において、船長が、係留中の本船から落水した可能性があると考えられるが、落水した状況及び死亡に至った状況を明らかにすることはできなかった。 発見時、本船の燃料が全て消費されていたことから、船長が、落水する際、本船のスロットルハンドルに手をかけており、そのためスロットルが、フルスロットルの位置まで引かれた可能性があると考えられるが、明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が青森県関根漁港沖において、養殖施設に係留中に発生した可能性があると考えられるが、船長が死亡に至った原因を明らかにすることはできなかった。	